

団体名	富山県教育委員会
-----	----------

I 事業内容

1. 事業実施前の現状と課題

(現状)

本県では、平成25年度までは、地域や障害種別、学校の特色に応じて県立特別支援学校が役割分担して、特別支援学校のセンター的機能を果たせるように取り組んできた。また、小・中学校及び特別支援学校の特別支援教育コーディネーター連絡会議の開催により、それぞれの専門性の向上や、小・中学校と特別支援学校との連携を図ってきた。特別支援学校における資質向上については、各特別支援学校のニーズに応じて、実践的研修を実施してきたが、学校によっては、特定の専門家等の活用のみにとどまることもあり、特別支援学校のセンター的機能向上という意識が弱かった。その課題を踏まえ、平成25年度の取組では、まず、特別支援学校において、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、臨床心理士等の専門家による実践的研修会を積極的に行った。その研修会を軸として外部専門家の専門性やその役割を明確にした連携を重視したことで、地域資源としての新たな外部人材や専門家等とのネットワークが形成され、センター的機能の充実に向け、成果をあげた。

平成26年度は、県教育委員会と特別支援学校が取り組むべき役割を明確にして研修の方向性を定めると共に、各地域の小・中学校等の実情に応じた内容に幅広く対応するため、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、臨床心理士等を講師とした実践的研修を以下のように実施した。

<特別支援学校が実施する研修>

- ①テーマ設定実践研修（学校が設定したテーマに基づき、継続して研修：2回程度）
- ②地域連携研修（地域の小・中学校と連携した研修：3回程度）
- ③スポット研修（学校の喫緊のニーズに応じた研修：2回程度）

<県立学校課が実施する研修>

- ①特別支援教育コーディネーター専門性向上研修：5回
- ②実態把握・指導力向上研修（ST、PT、OT、臨床心理士を講師とした継続研修：各

3回）

(課題)

- ・地域の小・中学校等を支援していく上で、他校が有する障害種別の機能を理解し、自校で対応できない場合に、どの障害種別の機能が必要であるかを見極め、学校間連携を積極的に行っていく必要がある。
- ・特別支援学校の教員による助言・援助の仕組みから、地域の小・中学校等の中心となる人材を養成していく視点で、外部専門家の活用を生かしていくことも積極的に行っていく必要がある。

2. 事業を通じて得られた成果と課題

(事業概要と成果)

① 各特別支援学校における実践的研修会の実施

- ・各学校が、所在地域や対象障害種別、学校の特色に応じた今日的課題等に応じ、外部専門家を活用した実践的研修を実施し、地域の特別支援学校や小・中学校等に可能な限り公開することができた。
- ・外部専門家を活用した実践的研修の積み重ねや研修成果の情報交換により、各学校の障害種別や今日的課題に応じた専門性を向上させることができた。
- ・公開された研修への参加を通じて、一人一人の障害の状態に応じた具体的な支援方法が共有でき、外部専門家の指導・助言をそれぞれの学校での支援に生かすことができた。

② 全体研修会の実施

- ・言語聴覚士、作業療法士、理学療法士の教育に係る役割、外部専門家と実践的研修を行う際の事前・事後の情報交換の持ち方、外部専門家と教員の役割分担、実態把握の観点、指導法等について認識を深めることができた。

③ 特別支援教育コーディネーター連絡会議等を活用した情報交換、センター的機能の理解・活用の推進

- ・小・中学校特別支援教育コーディネーターと特別支援学校特別支援教育コーディネーターで一人一人の児童生徒に応じた支援の方法や校内支援体制の構築に係る対応策を深めた。

(課題)

- ・一人一人の児童生徒への適切な支援を行うため、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの児童生徒の実態把握の力量や学校コンサルテーションの技量を高め、その技量が各学校で引き継がれていけるようにすることが課題と考える。

3. 解決策（次年度の取組等）

2か年の研究成果を踏まえ、県立特別支援学校が連携し、地域の実情や対象とする障害種別、学校の特色に応じて役割分担をしながら実践的研修に取り組む。平成27年度は、地域連携研修を拡充し、外部専門家による指導・助言を得ながら、地域の小・中学校等への支援の質的向上を目指していく。さらに、地域の小・中学校等への助言・援助の仕組みについて評価・改善しながら特別支援学校のセンター的機能の強化充実を図る。

① 各特別支援学校における実践的研修会の継続

- ・本年度同様、各特別支援学校がセンター的機能を果たす上で、課題と思われる内容に関して重点的に実践的研修を継続実施する。

② 地域連携研修の拡充

- ・地域の小・中学校等のニーズに応じ外部人材を派遣し、特別支援学校特別支援教育コーディネーターと小・中学校等と連携した実践的研修を行い、実施の方法、その成果の共有方法を考察する。
- ・地域内における特別支援学校間が連携し、双方の機能や役割の理解と向上を目指した研修を実施し、連携の在り方を考察する。

③ 専門性向上研修の充実

- ・特別支援教育コーディネーター等を対象に、大学教授等を講師として、コーディネーターの資質を向上させる研修を行う。
- ・言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、臨床心理士等を講師とした外部専門家の効果的な活用に関する研修を実施し、研修の一層の充実を図る。
- ・特別支援学校や小・中学校等の中心となる人材を対象に、外部専門家を講師とした事例研究を中心とした研修会を継続的に実施する。その中で小・中学校等に在籍する児童生徒の実態把握や指導に関する専門性の向上を図るとともに、特別支援学校特別支援教育コーディネーターにおいては、小・中学校の特別支援教育コーディネーターの学校コンサルテーションの技量を引き出し、意識化につなげるための事例のとらえ方、事例研究の進め方・助言方法についての視点を加えて研修を行う。

④ 研修成果の共有と周知

- ・共有すべき内容を精選して全体研修会を実施し、外部専門家による助言を受け、今後の方策を検討し、周知に努める。
- ・特別支援教育コーディネーター連絡会議等を活用した情報交換を実施し、センター的機能の理解・活用の推進を図る。

⑤ 外部専門家と教育機関、学校とのネットワークの拡充

- ・外部専門家に研修成果を還元し、これまで以上に外部専門家やその所属する機関、団体等とのネットワークを強固なものとしていく。

【推進地域及び指定校一覧】

推進地域	指定校	
富山県内全域	1	富山県立富山視覚総合支援学校
	2	富山県立富山聴覚総合支援学校
	3	富山県立高岡聴覚総合支援学校
	4	富山県立にいかわ総合支援学校
	5	富山県立しらとり支援学校
	6	富山県立富山高等支援学校
	7	富山県立高岡支援学校
	8	富山県立高岡高等支援学校
	9	富山県立となみ総合支援学校
	10	富山県立となみ東支援学校
	11	富山県立富山総合支援学校
	12	富山県立高志支援学校
	13	富山県立ふるさと支援学校